I-28

景観整備における観光地形成で生まれる「らしさ」と インバウンド観光客の散策行動における経路選択の関係性に関する研究

～埼玉県川越市重要伝統建造物群保存地区周辺を対象として～

A study of relationship between "Atmosphere" produced by townscape improvement and route choice behavior of inbound tourists
~A case of around the Kawagoe importance preservation district for group of historic buildings~

○中林諒[1]，　山中新太郎[2]
*Ryo Nakabayashi[1], Shintaro Yamanaka[2]

Study the relationship between the inbound tourists who are increasing in recent years and the townscape improvement of the tourist spot. Kawagoe City is popular as an old historical townscape. Kawagoe has made many townscape improvement before becoming a popular tourist destination. However, these are intended for Japanese tourists, and few have been done considering inbound tourists. The aim of this study is to investigate whether the formation of tourist spot of Kawagoe meets the needs of inbound tourists from the viewpoint of townscape improvement and to make use of it in future town planning.

１．はじめに

１−１．研究の背景

近年，「観光」という言葉が注目を浴びてきている．全国各地の観光地では，多くの観光客を誘致するために，町並み保存や整備，住民参加による活動などを行うことで観光地の形成を行っている．

しかし一方で，少子高齢化や地方の過疎化などの社会問題も起因して，今後国内観光客は減少していくことが見込まれている．そんな中，日本の観光産業を支える存在と考えられているのが，インバウンド（訪日外国人 以下 IB とする）である．2017 年には約 2900 万人の IB 観光客が日本を訪れ，現在も上昇傾向にある．

１−２．研究の目的

全国各地の観光地では様々な観光地形成を行ってきたが，近年急増している IB 観光客を想定したものは少ない．本研究は，そのような観光地形成が IB 観光客のニーズに適しているのかを景観整備の面から調査し，課題を明らかにすることで，今後の観光地形成に生かしていくことが目的である．

１-３．研究の対象地

本研究は，埼玉県南西部に位置する川越市の重要伝統的建造物群保存地区を中心とする川越の観光市街地[注1)]を対象とする．蔵造りの町並みや時の鐘など，古き良き町並みが残るエリアである．

川越は平成 23 年度に，観光庁の「訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る戦略拠点・地方拠点」の一つとして選定されたこともあり，IB 観光客数がかなりの上昇傾向にある．現在川越には約 20 万人/年の IB 観光客が訪れ[1)]，「小江戸（littele Edo）の町並みを楽しんでいる（図１）．

図１　川越市 IB 観光客数

２．川越の景観整備

蔵造りの町は元々地域の商店街として栄えていたが，鉄道駅周辺に商業中心地が移っていき，賑わいが減っていったことが景観整備をするに至った要因である．

当初は伝統的建造物群保存地区調査などの保存運動が活発であったが，蔵所有者の許可が取れず難航していた．その後高層マンションの建設が相次ぎ，危機感を感じた市は保存からまちづくりに方針を変え，市民中心の「川越蔵の会」の発足や景観政策の策定をはじめとして，景観整備を行い観光地形成をしてきた．

２-１．川越市川越伝統的建造物群保存地区保存計画[2)]

平成 11 年に川越は重要伝統的建造物群保存地区に選定された．本計画は保存地区の風致を維持し，地区の特性を生かした生活環境の向上に努める目的で策定された．

２-２．川越歴史的地区環境整備街路事業[3)]

通称歴みち事業は，歴史的町並みや史跡等の保全や整備に伴い，歴史的地区の街路整備を行って魅力的な町並みを形成しようとする事業である．川越では昭和 60 年から北部市街地を対象に，16 路線，総延長 3850m の歩行者系ネットワークの計画を策定し整備を行っている．

１：日大理工・学部・建築　２：日大理工・教員・建築

2-3．町づくり規範[4)]

伝建地区のまちづくりにおけるルールをまとめた原則集である．C･アレグザンダーの「パタン・ランゲージ」をヒントに 67 項目でまとめられた．町並みを形成し、「らしさ」を作る重要な要素となっている．現在でも新築建物や既存建物の修繕の際にはこの町づくり規範をもとに協議がなされている．

3．研究方法

3-1．アンケート調査

川越らしさを調べる上で，来訪時に川越を認知しているかを把握する必要がある．そのため，訪れる IB 観光客が川越に興味を持って訪れているかをアンケートを用いて調査する．

3-2．経路選択調査

景観整備で形成された「川越らしさ」が，IB 観光客の散策行動に影響を与えているのかを検証するために IB 観光客の経路選択を調査する[注2)]．

方法としては，図２のように伝建地区の T 字路の交差点に立ち，IB 観光客が交差点を直進するのか曲がるのかをカウントする．その後，視野に近い街路写真を利用し，２.で取り上げた３つの施策における整備内容やルールの写真における構成をまとめ比較する．

図２　経路選択方法

4．調査結果

4-1．アンケート調査結果

結果は図３の通りとなった[注3)]．また回答者の国別割合は図４の通りである．多国籍な IB 観光客の多くが、川越に興味を持って訪問していることがわかった．

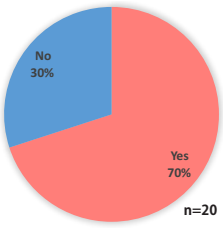

図３　川越認知度

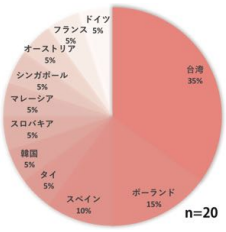

図４　国別割合

4-2．経路選択調査結果

街路 A･B の構成及び経路選択結果は以下のようになった（図５~７）．図８に示すように両交差点とも中央通りに面し，門前通りであるという類似点があるが，経路選択には差が見られる結果となった．街路 B に比べ A は伝統的建造物が多く建ち並び，町づくり規範のルールが多く適用されている街路である．このことが，「川越らしさ」のある雰囲気ある街路の要因となり，多くの IB 観光客が右左折することで散策行動を促進していると考える．

図５　街路 A･B 構成

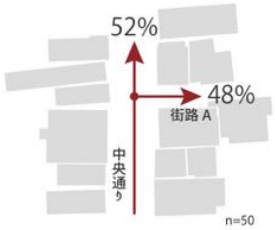

図６　街路 A 調査結果

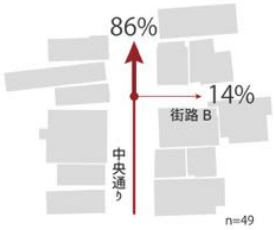

図７　街路 B 調査結果

5．まとめと展望

以上より，川越が行ってきた景観整備において形成された「川越らしさ」が IB 観光客の散策行動に影響を与えていると予想される結果となった．

今後は川越の観光地形成と IB 観光客の散策行動の因果関係を調査し明らかにしていくことが課題である．

注1)　川越の観光地に設置されている観光案内マップで赤く塗られている伝建地区を含むエリア（図８）．

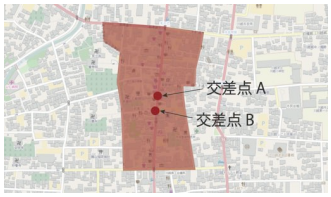

図８　対象地域・交差点[5)]

注2)　川越市中心市街地活性化基本計画において，魅力あるまちなみづくりのための目標として「回遊性の向上」が求められているため，散策行動による調査を選択した．

注3)　アンケート調査において質問項目「事前に川越を知っていた」，「川越の歴史を知っている」，「川越の特産品を知っている」のいずれかに Yes と答えた人の割合を示している．

参考文献

1)　川越市 HP https://www.city.kawagoe.saitama.jp/,平成 30 年 8 月 28 日閲覧
2)　川越市教育委員会:川越市川越伝統的建造物群保存地区保存計画,1999
3)　川越市建設部街路課:「歴みち」,2008.09
4)　川越町並み委員会：町づくり規範,1987
5)　OpenStreetMap Japan https://openstreetmap.jp/,平成 30 年 8 月 28 日閲覧